KONICA MINOLTA

春の星座解説

S-103（15 分 39 秒）

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

春の星座案内

・ブルー

M　日の入りの音楽

NA

花盛りの春。
厳しい冬の寒さの後には、命にあふれた春がやってきました。
昼の時間は長くなり、吹く風は暖かく、さくら、たんぽぽ、チューリップなど、きれいな花が次々に咲き始め、心も身体もうきうきしてきます。
夜になっても寒さが気にならず、星を眺めるには、良い季節となりました。
それでは、太陽が沈み、星が輝きはじめるのを待つことにしましょう。

（音楽　盛り上がる）

（日の入り）

（満天の星空）

（音楽　句切りよく終わる）

・方位灯

M　きれいな音楽

NA　春の星空です。
冬のきらびやかな星たちに比べ、春の星は春風のように
柔らかく感じられます。
春の星座さがしのポイントは、「北斗七星」と「春の大
曲線」です。
北の空、高いところを見てください。
七つの明るい星が見えます。
線で結ぶと、水を汲む「柄杓」の形になります。
この星々が「北斗七星」。

○　北斗七星

北斗の「斗」は柄杓のことです。
北の空にある、柄杓の形をした七つの星だから、「ほく
と、しちせい」と呼んでいるのです。
北斗というからには、南の柄杓、南斗もあるのかなと思
われるかも知れません。
実は、南斗もあります。
しかし、この春の星空では見ることができません。
南斗の星は「南斗六星」といって、夏の星空で見ること
ができます。
夏になったら、またこのプラネタリウムに来て、南の空
の柄杓、「南斗六星」を探してみてください。
さて、北斗七星は、星座でいうと「おおぐま座」の一部
大きな熊の腰と尻尾にあたる星です。

○　おおぐま座

○ 北斗七星

○ 春の大曲線（1）

P アークトゥルス

○ 春の大曲線（2）

P スピカ

P アークトゥルス

○ うしかい座

この熊、よく見ると、尻尾が長すぎます。

北アメリカの伝説によると、
熊が夜、森の中を歩いていると、周りの木々が話をしているのに出会いました。びっくりして逃げ出そうとすると、大きな樫の木は熊の尻尾をつまみ、ぶるんぶるんと振り回して、天に投げ上げました。
そのために、こんなに長い尻尾になってしまった、
ということです。

この、おおぐまの尻尾、北斗七星の柄杓の柄は少しカーブを描いています。

そのカーブをそのまま伸ばしてゆくと、明るい星が見つかります。

さらにカーブを伸ばしてゆくと、もう一つの明るい星が見つかります。

北斗七星の柄から南に向かって伸びるこの雄大なカーブを「春の大曲線」と呼び、春の星座を探すときの、大きな目印になります。

二つの明るい星のうち、最初に見つかった星は、
「アークトゥルス」といいます。

意味は「熊の番人」。

星座では「うしかい座」。熊を追う姿です。

○　春の大曲線（1）
○　春の大曲線（2）
P　スピカ

○　おとめ座

○　春の大曲線（1）
○　春の大曲線（2）

きっと、「おおぐま座」の熊を追っているのでしょう。

「春の大曲線」を伸ばして見つけた星で、二番目に見つかったこの明るい星は、「スピカ」と呼ばれる星です。
少し青みがかったような白さで光ります。
それはまるで真珠みたいに見えませんか？
そこで日本のある地方では「真珠星（ほし）」と、呼んだそうです。

「スピカ」のある星座は、「おとめ座」です。

この女性は農業の女神デーメテール。
彼女は大地の植物に、命を吹き込む力があるそうです。
しかし、ある季節になると、彼女は地上から姿を消してしまいます。
そうすると、地上の植物は枯れてしまいます。
その季節が、「冬」。
ギリシャ神話では、女神デーメテールがどこかへ消えて「冬」が訪れるのだと、伝えています。

さて、もう一度、「春の大曲線」を見てみましょう。

この大曲線をさらに伸ばしてみましょう。
今度は明るい星ではありませんが、四っつの星が、小さなゆがんだ四角形を作っています。

○ からす座

ここには烏が星座になっています。
「からす座」です。

この烏、もとは銀の羽を持ち、人間の言葉を話すことができたそうですが、神アポロンに嘘を言ってしまい、怒ったアポロンが言葉を取り上げ、黒い羽に変え、さらに天に上げ、四つの銀の釘で星空に打ち付けている、といわれています。

烏の身体は黒。
夜の色も黒。
だから、見えるのは銀の釘の頭だけ。

「からす座」の四つの星は、アポロンが打ち付けた銀の釘。
そして姿は見えませんが、今も烏は、星空にくっついているんだそうです。

○ 草刈り鎌　線

次は星空の高いところを見てみましょう。

そこに「はてなマーク」を裏返しした形に並んだ星たちがあります。
見つかりますか？
「はてなマーク」・・・「クエッションマーク」の形です。

答はここ、

こんな所に並んでいますね。
これは草を刈るときの、鎌の様な形をしていますね。
そこで「草刈り鎌」と呼ぶ人たちもいるようです。

○　しし座

星座では、この星の並びを、ある動物の頭に見立てました。
それは一番強い、動物です。
もうお分かりでしょう。
ライオンが星座になっています。

Ｐ　レグルス

しかし、この星座、「ライオン座」とは呼ばず、「しし座」といいます。
日本で最近、余り言いませんが、昔はライオンのことを「しし」と呼んでました。
そこで、星座の方では昔の呼び名で「しし座」といっています。

Ｐ　デネボラ

獅子の胸に、一等星があります。
この星は「レグルス」。
「小さな王様」という意味です。

Ｐ　アークトゥルス

獅子の尻尾の辺りにも、目立つ星があります。
こちらは二等星の「デネボラ」。
この「デネボラ」と、
初めに紹介した「アークトゥルス」

Ｐ　スピカ

そして・・・「スピカ」とを結ぶと、大きな三角形ができます。

○　春の大三角

これは、「春の大三角」と呼ばれています。

しし座の辺りには、幾つかの星を見ることができますが
その隣、右側には、目立った星がありません。
星が少ないと、暗く感じてしまいます。

○　かに座

そこでここには、海の底の暗いところで生活している、ある生き物をあてはめました。
「かに座」です。

しかし、蟹は暗いところにばかり住んでいるわけではありません。

「からす座」や「かに座」のように、あまり星の見えないところにも星座があります。
たとえばこんな星座をご存じでしょうか？

○　かみのけ座

これは一体、何なのでしょう？
髪の毛が星空に漂っている・・・、なんだか不気味ですね。
「かみのけ座」という星座で、ギリシャ神話にも登場する星座です。
このあたりに明るい星はありませんが、暗い星が、たくさんあるように見えませんか？
昔の人たちは、何か注目をしていたのかも知れません。
そこで、しっかりとここに星座をあてはめたようです。

○　かんむり座

他に、星が可愛くまるのように並んだところがあります。
そこには「かんむり座」をあてはめました。
暗い星たちなので、星座の絵は消してみましょう。

冠のような形で並んだ星たちの、ちょうど真ん中には、
少し明るい星があります。
いかにも、冠らしい星の並びですね。
エジプトでは、この並びを「欠けた皿」と見ました。
そういえば、丸い円というには、一部分が欠けています
また、日本のある地方では「馬の蹄の跡」と見立てました。
馬が歩くと、地面にこんな跡が残ります。
この星空の馬の蹄の跡には、天に昇ったお母さんに会うため、子馬が大きく飛び跳ねた時についたものだ、という話が残されています。

M　エンディング音楽

NA

春の星たちは「北斗七星」から「春の大曲線」を伸ばしてゆくと、分かりやすく見つかります。
天の川はこの季節、地平線に横たわり、あまり良く見ることはできません。
しかし、季節も暖かくなり、これからは星を見るには良い季節ですね。
どうぞ、今度は本当の星空で、今日紹介した星や星座を捜してみて下さい。

おわり